

ふるさとの植物を守ろう 植物園と生物多様性



公益社団法人日本植物園協会

目次

2030年目標達成へ向けた1年目の取り組みと今後の活動	2
植物多様性保全委員会 委員長 中村 剛	
植物多様性保全拠点園の再編	4
植物多様性保全拠点園ネットワーク分科会 座長 志内 利明	
植物個体管理データベースの運用	6
植物情報システム委員会 委員長 厚井 聡	
植物個体管理データベース マニュアル（簡易版）	8
2025年度 植物多様性保全拠点園事業 活動報告	16
2026年度 植物多様性保全拠点園事業 活動計画	26

表紙写真

豊橋総合動植物公園 絶滅危惧種ナガボナツハゼの自生地保全	東京都神代植物公園 (植物多様性センター) 講座「植物標本をもっとつくろう！」	国立科学博物館筑波実験植物園 種子から育てたシマクモキリソウ展示
武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園 「企業×小学校×行政で生物多様性！」	安城産業文化公園デンパーク ガマズミの仲間の保全	大阪公立大学附属植物園 西表島サキシマホラゴケ調査
富山県中央植物園 コモチナナバケシダの発芽試験	六甲高山植物園 藍のたたき染め体験	
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 岨山の高山植生保全のための調査	一般財団法人沖縄美ら島財団 世界の珍しいタネ展	大阪府立花の文化園 たんぽぽ観察会

2030 年目標達成へ向けた 1 年目の取り組みと今後の活動

植物多様性保全委員会

委員長 中村 剛（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園）

2025 年度は、日本植物園協会・植物多様性保全 2030 年目標（2024 年 12 月理事会承認）が 5 月の第 60 回定時総会で周知され、その達成に向けた取り組みの実質的な 1 年目でした。この目標は「昆明・モントリオール生物多様性枠組」および日本の「生物多様性国家戦略 2023-2030」を踏まえて策定されたもので、植物園が野生植物の生息域外保全および有用植物資源の系統保存の中核として貢献することを重要な使命として位置づけています。4 つのテーマの下に定められた 13 の目標は、その解説とともに昨年度の本委員会年次報告に掲載されています。2030 年目標の成果は、今後、日本の「生物多様性国家戦略 2023-2030」の達成状況を評価するうえでも参照されるものです。2025 年度には、これらの新たな目標を念頭に、各委員会および会員園において、さまざまな取り組みが進められました。ここでは、植物多様性保全委員会および本委員会が協力する他の委員会の活動の中で、とくに大きな動きがあったものについて報告します。

植物多様性保全拠点園ネットワークの再編

植物多様性保全委員会の拠点園ネットワーク分科会では、2025 年 7 月から、絶滅危惧植物の収集・保全・展示・教育普及活動に取り組む植物多様性保全拠点園の再募集を行いました。その結果として再編された植物多様性保全拠点園ネットワークについては、本年次報告の別稿（p. 4～5）をご参照ください。全国 9 地域に配置された植物多様性保全拠点園が担う重要な役割として、自園の保全活動に加えて、拠点園以外の会員園が保全活動に取り組むやすくなるための支援活動があります。例えば、日植協と環境省との協定に基づく連携事業では、国内希少種あるいは国内希少種に指定される可能性のある絶滅危惧植物の生息域外保全を推進するため、植物個体（株や種子・胞子）の収集活動を行っています。しかし、これまでこうした活動に取り組んだ経験のない会員園にとっては、その実施に高いハードルがあるとの声も聞かれます。とくに、国立公園などの保護地域における植物採集では、複雑な許可申請書類の作成が必要となるため、これが新たな園が活動に参画することを妨げる要因の一つとなっていると考えられます。このような状況を踏まえ、植物多様性保全委員会の環境省連携事業分科会では、新規参入園を支援するためのサポート体制について議論を進めてきました。今後、植物採集に係る許可申請に関する講習会などの開催を予定しています。各地域の植物多様性保全拠点園とそのネットワークは、このような支援の担い手として期待されています。より多くの会員園に、保全活動へ積極的に参画頂ければと思います。

「調査収集優先種リスト」の大幅な更新

環境省連携事業分科会では、優先的に生息域外保全すべき絶滅危惧種のリストである「調査収集優先種リスト」の大幅な更新を行いました。このリストは、第 5 回絶滅危惧植物保有状況調査の結果（53 園が回答。2025 年 5 月現在）と、植物多様性保全拠点園の種子保存拠点園（新宿御苑、沖縄美ら島財団、京都薬用植物園）が保有する種子・胞子の令和 6 年度末集計に基づいて作成されたものです。各資料に基づく優先種の基準は次の通りです（ここでは、「種」とは種・亜種・変種を含み、「種類」としてカウントしています。また、「メタコレクション」とは、複数の植物園が同一種の異なる遺伝的系統を分担して生息域外保全することで、全体として高い遺伝的多様性を確保する保全手法のことです）。

【絶滅危惧植物保有状況調査】

基準 1：日本植物園協会加盟園（種子保存拠点園を含む）が保有していない種（590 種類）

基準 2：由来自生地の情報をもたない個体しか保有されていない種（793 種類）

基準 3：由来自生地の情報をもつ個体が 1 園でしか保有されていない種（危険分散やメタコレクションができていない種）（337 種類）

【種子保存拠点園保有サンプル集計】

基準 4：由来自生地の情報がないサンプルしか保存されていない種（55 種類）

基準 5：自生地由来のサンプル数（冷凍と冷蔵の合計）が 1 のみの種（309 種類）

基準 6：自生地由来のサンプルがあるが保存開始から 10 年以上経過した種（267 種類）

このリストは、毎年収集活動の成果を反映しながら継続的に更新されていく予定で、日植協ウェブサイトから入手できるよう、現在整備を進めています。環境省連携事業における収集活動はもちろん、それ以外の保全活動においても、ぜひ参考資料として積極的に活用頂きたいと思います。

植物個体管理データベースの運用開始

2030 年目標では、生息域外保全する植物個体（株や種子・孢子）の種類数について具体的な数値目標が設定されています。その進捗状況を把握するためには、全国の会員園が保有する植物の情報の集約と共有が極めて重要です。これを大きく支える仕組みとして整備されたのが「植物個体管理データベース」です。本データベースは、環境省連携事業の一環として、植物情報システム委員会が中心となり、環境省連携事業分科会が協働して整備を進め、2025 年度末に正式運用が開始されました。その概要および利用マニュアルが、本年次報告（p. 6～15）に掲載されています。本データベースは絶滅危惧種や日本の自生種に限らず全ての植物個体のデータを登録することができるので、各園の植物コレクションの管理に取り入れていただければと思います。また、各会員園のデータ登録にあたっては、植物情報システム委員会や植物多様性保全委員会が状況に応じサポートを行う予定です。さらに、これに関連して、絶滅危惧植物の生育環境・繁殖生態・栽培条件等を集約する「植物特性データベース」が日植協ウェブサイト移転に伴うシステム調整等のため一時的に運用を停止していますが、その再開に向けた作業を進めています。

今後の活動にむけて

日本の植物園が生息域外保全を推進していくうえでは、他国における先進的事例を学ぶことが大変重要です。国際交流推進委員会では、毎年、海外事情調査を実施しており、2026 年度は韓国での調査を予定しています（9 月実施予定。詳細は国際交流推進委員会からの案内をご覧ください）。この調査では、韓国森林省の種子保存施設である白頭大幹世界種子貯蔵庫（Baekdudaegan Global Seed Vault）の見学も計画されています。日本における野生植物の種子保存は、種子保存拠点園と全国の会員園のネットワークによる「分散保存」で行われています。分散保存には、災害等に際しての危険分散の意義や、各園の専門性を生かした分担による効率化といった長所があります。また、地元の植物を保全することで、植物園の社会的意義を地域に発信できるという副次的なメリットもあります。日本における種子保存の体制と韓国の大規模施設による集約的な体制は異なりますが、その設備や運営について学ぶことは、日本における種子保存の施設整備と取り組みの発展に向けて、大いに参考になるものと思います。

2025 年、日植協は法人設立 60 周年を迎え、「もっとつながる植物園に」をテーマとして掲げました。60 周年記念出版分科会では、植物・環境・社会・植物園を「つなぐ」ことをテーマとした協会誌第 60 号別冊・60 周年記念号を編集しました。本記念号は、絶滅危惧種の保全や種子保存、データベースによる情報共有・継承、外来生物への対応など、今後の活動の方向性を示していますので、ぜひご一読頂き、各会員園の活動の参考として頂きたいと思います。

植物多様性保全拠点園の再編

植物多様性保全拠点園ネットワーク分科会

座長 志内 利明（富山県中央植物園）

日本植物園協会では、植物園における保全植物の種類数の増加と質の向上を目的として、2006年に「植物多様性保全拠点園ネットワーク事業」を立ち上げました。これまで、気候や地域特性、専門分野に応じて、各園が保全対象の植物を分担し、全国の拠点園の協力のもと、研究機関や行政、市民団体などと連携を図りながら、植物多様性保全を推進してきました。その結果、一定の成果を上げてきました。しかし、植物園で生息域外保全する植物の中には、遺伝的多様性の確保されていない個体や、自生地情報を伴わない個体があるほか、市民団体等との協働などの連携の強化といった課題も明らかになっています。こうした課題に加え、発足時から約20年が経過し、植物多様性保全に対する社会的要請や状況の変化に対応するため、令和5年度より拠点園ネットワーク分科会を設置して、植物多様性保全拠点園ネットワーク事業の枠組みやこれからの在り方について検討を進めてきました。令和7年度から拠点園の再募集を含む再編を行うこととなりました。

拠点園の区分は、従来どおり地域性や専門分野に応じて、「地域野生植物保全拠点園」、「特定植物保全拠点園」、「種子保存拠点園」の3区分としています。再編にあたっては、必ずしも多くの種の保全に取り組んでいなくても拠点園への加盟を可能とし、とりわけ「地域野生植物保全拠点園」については、多様な植物園に参画していただけるよう、収集・保全・展示・教育普及活動のいずれかを実施していれば要件を満たすこととしました。

今回の再募集により、新たに2つの植物園が拠点園に登録しています。また、拠点園ネットワーク再編後の新たな取り組みとして、令和7年11月18日には、第一回植物多様性保全拠点園講習会「植物採取に必要な許可申請」をオンラインで開催し、30名以上の参加がありました。

植物園にとって希少な植物の保全および保全活動の普及啓発は、社会的意義や成果を市民や行政に分かりやすく示すことができる重要な取り組みであると考えています。今後は、再編された拠点園ネットワークを基盤として、日本全国での絶滅危惧植物の保全を推進するとともに、地域ごとの連携をさらに強化し、持続的かつ発展的な植物多様性保全活動の展開を目指しています。なお、拠点園への登録は、随時受け付けていますので、登録を希望される場合は協会事務局までご連絡ください。

植物多様性保全拠点園

植物園における「保全植物の種類数の増加」及び「保全植物の質の向上」を目的とし、気候・地域や専門分野等に配慮して、全国各地に設けた拠点となる植物園。各拠点園の保全ターゲット種を明確にし、植物園間および研究機関、市民団体、行政等との有機的な保全ネットワークを構築することにより、効果的・効率的な保全を推進する。

<地域野生植物保全拠点園>

自園で収集、保全、展示、教育普及活動のいずれかを行うとともに、当該地域の他の植物園や行政当局、市民団体などと連携を進める役割を担い、園の所在する地域の生物多様性保全にさまざまなアプローチで貢献する

<特定植物保全拠点園>

地域を限定せず、特定の分類群やカテゴリー（たとえばラン科、シダ植物、高山植物、水生植物など）の植物を収集・保全する拠点園

<種子保存拠点園>

自園以外からも種子を受け入れ、種子の保存を行う。必要に応じて種子の提供を行う

植物多様性保全拠点園一覧(2026 年 5 月)

地域野生植物保全拠点園	
北海道	■北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 ■旭川市北邦野草園
関東	■国立科学博物館筑波実験植物園 ■環境省新宿御苑 ■東京都神代植物公園
中部	■新潟県立植物園 ■富山県中央植物園 ■白馬五竜高山植物園 ■名古屋市東山植物園 ■内藤記念くすり博物館附属薬用植物園 ■豊橋総合動植物公園
関西	■京都府立植物園 ■武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園 ■大阪公立大学附属植物園 ■大阪府立花の文化園 ■大阪市立長居植物園 ■六甲高山植物園 ■姫路市立手柄山温室植物園
中国	■広島市植物公園
四国	■高知県立牧野植物園
九州	■福岡市植物園 ■西海国立公園九十九島動植物園 ■熊本大学薬学部薬用植物園
沖縄	■一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究所

特定植物保全拠点園	
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園	【高山帯・冷温帯の絶滅危惧植物】
国立科学博物館筑波実験植物園	【シダ植物、ラン科、ソテツ目、水生植物、高山植物、センニンソウ属、 テンナンショウ属、カンアオイ属、チャルメルソウ属】
環境省新宿御苑	【国内希少野生動植物種(維管束植物)】
北里大学薬学部附属薬用植物園	【薬用植物】
富山県中央植物園	【高山植物、サクラ属、キク属とその近縁属、水生植物】
安城産業文化公園デンパーク	【ガマズミ属、ギボウシ属、サルビア属、旧ヒイラギナンテン属】
大阪公立大学附属植物園	【水生植物】
大阪府立花の文化園	【カンアオイ類、テンナンショウ類】
咲くやこの花館	【マダガスカル産、サクラソウ属(国内外の野生種)】
武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園	【薬用植物】
広島市植物公園	【ラン科】
高知県立牧野植物園	【ラン科、ツツジ属、キク科、蛇紋岩植物、石灰岩植物】
一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究所	【ラン科】

種子保存拠点園	
●環境省新宿御苑	●武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園
●一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究所	

植物個体管理データベースの運用

植物情報システム委員会

委員長 厚井 聡（大阪公立大学附属植物園）

データベースはコレクションを適切に管理するための重要なツールです。日本植物園協会は、会員園で保有されている絶滅危惧種を中心とした植物コレクションを管理するための「植物個体管理データベース」の開発を進めてきました。このデータベースは、植物園などで保有されている植物の個体情報（保有機関、産地、履歴など）を管理するためのものです。日本の絶滅危惧種のみならず、外国産植物や園芸品種など、各園で保有しているすべての植物を対象とし、生株のみでなく、種子や胞子も登録できます。オンラインで稼働し、インターネットを介して情報を園内外で共有できます。また、Excel ファイルによる一括での登録・編集やダウンロードが可能です。さらに、二次元コードを発行し、このコードをタグとして植物自体あるいは栽培している鉢に取り付けることで、個体と情報を一体で管理できます。絶滅危惧種の保有数を5年ごとに集計する絶滅危惧植物保有状況調査にも、このデータベースが利用される方針です。このデータベースに情報を集積していくことで、日本全体でどのような由来の植物個体が、どこでどのくらい保有されているのかという情報が集約されることになります。

データベースの利用方法

本データベースには「試用版」と「公開版」があります。操作方法は全く同じですが、試用版に登録された情報は一般の方や他園に公開されませんので、公開版の利用を検討する際にお試ください。公開版では、データベースに登録されている個体の保有数や生育状態、都道府県までの産地情報などを一般の方に公開します（一般公開は2027年2月から開始予定）。ただし、センシティブ項目（保有されている園名や詳細な産地情報など）は公開されません。

データベースを利用するためのアカウントは2種類あります。「園管理者用」アカウントは、自園の情報の登録・編集が可能です。また、他園の情報（機密度「高」のセンシティブ項目を除く）も閲覧できます。一方、「園閲覧者用」アカウントは、自園のすべての情報を閲覧できますが、登録・編集はできません。他園の情報は、「園管理者用」アカウントと同様、機密度「高」のセンシティブ項目を除いて閲覧できます。いずれのアカウントも日本植物園協会のウェブサイトから申請できます。試用版の利用についてもアカウント申請が必要になりますので、植物情報システム委員会にお問い合わせください。

表. アカウントの種別と権限.

種別	ログイン ID	登録・編集	閲覧
ゲスト	不要	不可	可 ※センシティブ項目(機密度の高低に関わらず)は閲覧不可
園閲覧者	必要	不可	可 ※他園のセンシティブ項目(機密度高)は閲覧不可
園管理者	必要	可(自園のみ)	可 ※他園のセンシティブ項目(機密度高)は閲覧不可

本稿の最後に本データベースの簡易版マニュアルをつけています。ご覧いただき、データベースの概要把握にお役立てください。各会員園のデータ登録にあたっては、日本植物園協会が情報入力サポートを行う予定です。また、今年度はオンラインでデータベースの利用方法に関する研修会を実施します。各園の植物コレクションの管理に役立てていただくとともに、日本で生息域外保全されている植物コレクションの情報集約にご協力いただけると幸いです。

コレクション詳細

ID	204487												
オリジナル和名	イヌザンショウ												
和名（種名リストより）	イヌザンショウ（オオバイヌザンショウ、ホソバイヌザンショウ、コバノイヌザンショウ） GreenListより												
オリジナル学名	Zanthoxylum schinifolium Siebold et Zucc. var. schinifolium												
学名（種名リストより）	Zanthoxylum schinifolium Siebold et Zucc. var. schinifolium GreenListより												
オリジナル科名													
科名（種名リストより）	Rutaceae（ミカン） APG III GreenListより Rutaceae（ミカン） 新エングラール GreenListより												
環境省レッドリストカテゴリー（2012）	該当なし												
環境省レッドリストカテゴリー（2020）													
種情報	未入力												
オリジナル機関名													
機関	大阪公立大学附属植物園												
機関内ID													
コレクションコード													
保存単位	未入力 個体単位 繁殖栽培単位 種子・胞子 種単位 不明												
保存単位数	1												
栽培環境													
種子・胞子の保存方法	未入力 常温保存 冷蔵保存 (-2~4℃) 冷凍保存 (-20℃) 超低温保存 (-80℃) 超低温保存 (-150℃以下) 不明												
生存・生育状態	生死未入力 枯死 生存 消失 生死不明												
産地													
花期													
ラベル情報	なし												
導入日	年月日未入力												
導入方法	未入力 野外採取 園内採取 譲受 購入 不明												
機密度	機密度低 機密度高												
追加項目	<table><tr><td>株管理者</td><td></td></tr><tr><td>植栽エリア</td><td>11 里山エリア</td></tr><tr><td>和名参照資料</td><td>未入力</td></tr><tr><td>問い合わせ先</td><td></td></tr><tr><td>学名参照資料</td><td>未入力</td></tr><tr><td>導入表の日付</td><td>2024-09-01</td></tr></table>	株管理者		植栽エリア	11 里山エリア	和名参照資料	未入力	問い合わせ先		学名参照資料	未入力	導入表の日付	2024-09-01
株管理者													
植栽エリア	11 里山エリア												
和名参照資料	未入力												
問い合わせ先													
学名参照資料	未入力												
導入表の日付	2024-09-01												

図. 植物個体管理データベース.

植物個体管理データベース マニュアル（簡易版）

植物情報システム委員会

システムの特徴

- 本システムは、スマートフォンやパソコンの Web ブラウザから利用できます。専用アプリのインストールは不要で、OS の種類も問いません。
- レコードごとの機密度設定により、ログイン ID の種類（園管理者、園閲覧者、ゲスト）に応じて閲覧できる情報を制御できます。
- 園管理者 ID により、自園のレコードを登録・編集・削除できます。自園の園管理者以外は、自園のレコードを編集できません。
- Excel ファイル（xlsx 形式）を使って、レコードの一括登録（インポート）や書き出し（エクスポート）が可能です。各園で管理している既存のデータを活用できます。
- 和名または学名を入力することで、登録されているレコードの中から該当する植物を検索できます。

利用者の種類

1. ゲスト（ログイン不要）

- 機密情報（センシティブ項目）以外の情報を閲覧できます。

2. 園閲覧者（ログイン必要）

- 自園のすべての情報を閲覧できます。
- 情報の登録・編集・削除はできません。
- 他園の情報（機密度「高」のセンシティブ項目を除く）を閲覧できます。

3. 園管理者（ログイン必要）

- 自園の情報を登録・編集・削除・閲覧できます。
- 他園の情報（機密度「高」のセンシティブ項目を除く）を閲覧できます。

操作手順（利用者向け）

1. データの閲覧

1. Web ブラウザを起動します。
2. 植物個体管理データベース（個体 DB）のトップページにアクセスします。

●公開版 <https://dlivecop.jabg.or.jp>

●試用版 <https://sandbox.jabg.or.jp>

3. トップページから「コレクション管理」を選択します。



ログインしなくても、機密情報（センシティブ項目）以外の情報を閲覧できます。
※ゲストへの公開は2027年2月開始予定です。

2. ログイン方法（園閲覧者・園管理者）

1. Webブラウザで個体DBのトップページを開きます。
2. 画面上部の「ログイン」をクリックします。



3. 登録済みのメールアドレスとパスワードを入力してログインします。

ログインIDは事前に利用申請が必要です。

3. データの探し方（検索）

- ログイン後（またはログインせずに）、 「コレクション管理」 を開きます。
- 表示された保有種一覧から、任意の種名をクリックします。

保有種一覧

種和名 (レコード数)

アマミアセビ(1304)

アマミデンド(886)

チチブイワヅクラ(320)

キブネダイオウ(182)

オオキンレイカ(167)

タイヨウフウトウカズラ(112)

チタカンアオイ(108)

ムニンノボタン(41)

(36)

カドハリイ(27)

コバトベラ(26)

ジンリョウユリ(23)

ムニンツツジ(22)

アサヒエビネ(22)

- コレクション一覧画面で、以下の方法で検索できます。

コレクション一覧

和名: イヌザンショウ 学名:

ID	オリジナル和名	オリジナル学名	機関	レコード更新日	
204487	イヌザンショウ	Zanthoxylum schinifolium Siebold et Zucc. var. schinifolium	大阪公立大学附属植物園	2026/03/23	編集 削除

- 和名または学名を入力（部分一致検索）
 - 和名と学名を両方入力（AND 検索）
- 一覧表の項目名（ID、和名、学名など）をクリックすると、昇順・降順に並び替えられます。

4. レコードの詳細を確認する

- コレクション一覧画面で ID 番号 をクリックします。
- 選択したレコードの詳細情報が表示されます。

コレクション詳細

ID	204487
オリジナル和名	イヌザンショウ
和名（種名リストより）	イヌザンショウ（オオバイヌザンショウ、ホソバイヌザンショウ、コバノイヌザンショウ） GreenListより
オリジナル学名	Zanthoxylum schinifolium Siebold et Zucc. var. schinifolium
学名（種名リストより）	Zanthoxylum schinifolium Siebold et Zucc. var. schinifolium GreenListより
オリジナル科名	
科名（種名リストより）	Rutaceae（ミカン） APG III GreenListより Rutaceae（ミカン） 新エングラマー GreenListより

ログインしていない場合や権限がない場合、機密情報は表示されません。

5. 新しいレコードを登録する（画面から入力）

※この操作は 園管理者のみ 行えます。

1. ログイン後、上部メニューの「コレクション管理」をクリックします。
2. 画面最下部の「新規レコード作成」をクリックします。
3. 入力画面で必要な項目を入力します。
 - 「オリジナル和名」または「オリジナル学名」は必須です。
 - 機密度を選択してください（初期設定：機密度高）。
4. 入力内容を確認し、「登録する」をクリックします。

6. Excel を使ってまとめて登録する（インポート）

※この操作は 園管理者のみ 行えます。

① 入力シートを準備する ※アップロード用 Excel ファイルもご利用ください。

1. 「コレクション一覧」画面で「Excel ファイル（xlsx 形式）ダウンロード」をクリックします。



2. ダウンロードした Excel ファイルの Collections シート にデータを入力します。
 - 2 行目からデータを入力してください（1 行目のタイトル行は変更しないでください）。
 - 複数レコードを入力する場合は、2 行目をコピー&ペーストして使用してください。
 - **新規レコードを登録する場合、ID は必ず空欄にしてください。**
 - Excel を利用する場合、「オリジナル和名」または「オリジナル学名」に加えて、「機関」「生存・生育状態」「保存単位」「種子・胞子の保存方法」「導入日精度」「導入方法」「導入形態」「導入元」「機密度」の入力が必須です。
 - レコードを削除する場合は、①A 列の前に新しい列を挿入；②A1 に「tempid」と入力；③削除するレコードの A 列に「d」と入力してください。

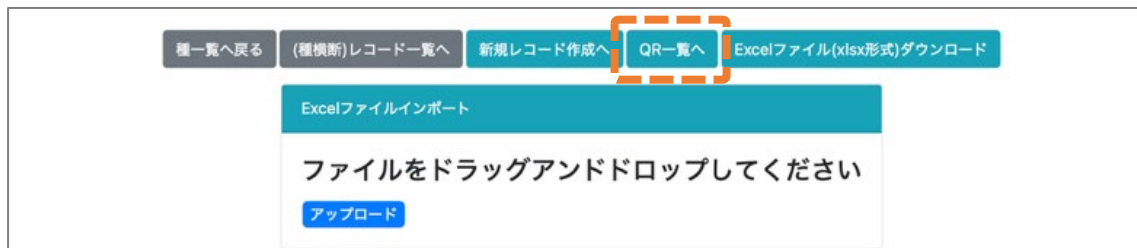
② Excel ファイルを取り込む

1. 個体 DB にログインし、「コレクション一覧」を開きます。
2. 「Excel ファイルインポート」欄に、作成した Excel ファイルを
 - ドラッグ&ドロップ、または
 - クリックしてファイルを選択します。

3. 「アップロード」→「アップロードファイルを検証」を順にクリックします。
4. 検証完了後、「アップロードファイルをインポート」をクリックします。
5. 取り込みが完了したら、「アップロードファイル削除」をクリックします。

7. QR コードの利用

- 各レコードの詳細画面には QR コード が表示されます。
- QR コードをスマートフォンで読み込むと、該当レコードをブラウザで表示できます。
- 「QR 一覧へ」から、各レコードを閲覧するための URL 一覧をダウンロードできます。お手持ちのアプリで QR コードを作成する際にご利用ください。



※QR コード自体は公開情報ですが、リンク先の閲覧内容はログイン権限により制限されます。

詳細は通常版マニュアルを参照してください。

【問い合わせ先】

日本植物園協会 植物情報システム委員会

database_LPCD@jabg.or.jp

付録 1. アカウント権限

	閲覧 (機密度高)	閲覧 (機密度低)	閲覧 (その他)	入力	ログイン ID
ゲスト	×	×	○	×	—
園閲覧者	○ (自園のみ)	○	○	×	必要
園管理者	○ (自園のみ)	○	○	○	必要

付録 2. データ項目

青字は必須項目。赤字はセンシティブ項目（機密度を設定できます）で、ログイン ID をもたないゲストには公開されません。黒字は非センシティブ項目で、ゲストに公開されます。

基本情報	
オリジナル和名	和名を入力する。入力できる文字種に制限はありません。 例) オニバス
オリジナル学名	学名を入力する。オリジナル和名を入力した場合は不要。半角英字・先頭大文字。雑種記号は x（小文字のエックス）を使用する。一部のアクセント記号付きアルファベットは入力不可。 例) <i>Euryale ferox</i> Salisb.
オリジナル科名	科名を入力する。半角英字・先頭大文字・語尾-aceae.
オリジナル科和名	科の和名を入力する。全角カタカナ。
オリジナル機関名	保有している機関名を入力する。機密度の「高」「低」に関わらず、他園の園閲覧者には公開されます。 例) 大阪公立大学附属植物園
コレクションコード	自園で植物コレクションに付与しているコードがある場合は入力する。
機関内 ID	自園で用いている個体識別番号などを入力する。 例) 1A_222333
生存・生育状態	「枯死」「生存」「消失」「生死不明」から選択する。
保存単位	「個体単位」「繁殖栽培単位」「種子・孢子」「種単位」「不明」から選択する。保存単位が複数ある場合は別々に登録する。
保存単位数	数値を入力する。 例) 5

栽培環境	栽培している環境を入力する。 例) 水生プール
種子・胞子の保存方法	「常温保存」「冷蔵保存(-2~4℃)」「冷凍保存(-20℃)」「超低温保存(-80℃)」「超低温保存(-150℃以下)」「不明」から選択する。
ラベル情報	自園で用いているラベルに記載している情報を入力する。 例) 2024/2/29 採取・大阪市住吉区杉本町
導入日	保有を開始した年月日を入力する。 例) 2024/3/1
導入日精度	導入日の精度を選択する。
導入方法	「野外採取」「園内採取」「譲受」「購入」「不明」から選択する。
導入形態	「種子・胞子」「株・個体」「挿し木」「不明」から選択する。導入形態が複数ある場合は別々に登録する。
導入元	リストから選択する。該当する機関がない場合は「該当なし」を選択する。
機関該当なしの場合	機関名や個人名を入力する。 例) 公大太郎
親個体 ID	個体 DB で付与された親個体の ID 番号 (数字) を入力する。クローン繁殖の場合、元の個体の ID 番号を入力する。種子の場合、基本的には母親 (胚珠親) 側の ID 番号を入力する。父親 (花粉親) 側の ID 番号や情報の精度は備考欄に記載する。
機密度	「機密度高」「機密度低」から選択する。初期設定は「機密度高」です。
備考	基本情報に関する備考データを入力する。
産地 (自生地の情報を入力)	
産地国	例) 日本
産地都道府県・州・省	例) 大阪府
産地市町村・自治体	例) 大阪市
産地地点	例) 住吉区杉本町
産地最低標高	数値を入力する。単位はメートル (m) です。 例) 10
産地最高標高	数値を入力する。単位はメートル (m) です。 例) 10
産地緯度	数値 (十進法) を入力する。
産地経度	数値 (十進法) を入力する。
産地測地系	緯度経度のシステムを入力する。通常は、WGS84, TokyoDatum, JGD2000, JGD2011 のいずれかが使われる。野外にて GPS を利用した場合、多くは WGS84 になる。
生育環境	自生地の生育環境を入力する。
採取機関	採取機関を入力する。 例) 大阪公立大学附属植物園
採取者	採取者を入力する。 例) 公大次郎
採取日	採取した年月日を入力する。例) 2024/2/29
採取日精度	採取日の精度を選択する。

イベント履歴（導入時および導入後のイベントを入力）	
日付	イベントを実施した日付を入力する。例）2024/4/1
日付精度	日付の精度を選択する。
機関	リスト表示から選択。イベント種別が「譲渡」「分譲」の場合、譲渡先・分譲先を選択する。それ以外の場合は選択不要。
機関該当なしの場合	機関名や個人名を入力する。上記リストにない場合に入力する。
イベント種別	「導入」「譲受」「購入」「採取」は導入時のイベントとして選択する。「譲渡（譲渡元の機関にオリジナルが残らない）」「分譲（分譲元の機関にオリジナルが残る）」「株分け」「種子・孢子採取」「生存確認」「枯死確認」は導入後のイベントとして選択する。該当するイベントがない場合は「その他のイベント」を選択する。
その他のイベント	イベント種別で「その他のイベント」を選択した場合、イベントの名称を入力する。
備考	イベントに関する備考データを入力する。
遺伝情報	
フローサイトメトリーピーク値	ピーク値（最頻値）を入力する。
ゲノム ID	SSR マーカーの登録番号を入力する。
マーカー名	SSR マーカーの名称を入力する。
マーカーサイズ	SSR マーカーのサイズ（bp）を入力する。
フォワードプライマー配列	SSR 解析に用いたフォワードプライマーの塩基配列を入力する。
リバースプライマー配列	SSR 解析に用いたリバースプライマーの配列を入力する。
その他情報	
花期開始月	月の数値を入力する。例）6
花期終了月	月の数値を入力する。例）7
関連メディア（URL）	Web サイト上にアップロード済みの画像がある場合にその URL を入力する。複数ある場合は「 」で区切って入力する。 例）https://www.123456789 https://www.987654321
追加項目	追加したい項目と内容を入力する。直接入力する場合は JSON (JavaScript Object Notation) 形式を用いる（例を参照）。入力シート（Excel ファイル）を用いる場合、列を追加する。 例）株管理者として公大三郎という名前を登録する場合、{ “株管理者” : “公大三郎” } と入力する。複数の項目を追加する場合、{ “株管理者” : “公大三郎” , “担当者” : “公大四郎” } と入力する。

2025 年度 植物多様性保全拠点園事業・活動報告

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

<調査・研究>

- ・部分的菌従属栄養植物イチゲイチャクソウの保全研究
- ・オオウサギギク南限集団の保全を目的とした遺伝解析と生態調査
- ・北海道指定希少野生植物ヒダカソウの自生地植え戻し試験
- ・北海道指定希少野生植物エンビセンノウの自生地植え戻し試験
- ・礼文島の高山植生保全のための調査
- ・日本の植物園の希少種コレクションとその情報管理の問題の検証
- ・環日本海分布植物の系統的・生理生態学的保全単位の研究

<教育・普及啓発>

- ・小学生向け公開講座「葉っぱで作る植物図鑑」
- ・小学生とその保護者向け公開講座「冬の植物園ウォッチング・ツアー」

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・岨山の高山植物の生息域内・域外保全における「岨山自然保護協会」との協力
- ・アポイ岳の高山植物の生息域内・域外保全における「アポイ岳ファンクラブ」との協力
- ・北海道の高山植物の生息域内・域外保全における「北海道高山植物保護ネット」との協力



上:アポイ岳の高山植物保全調査

下:岨山の高山植生保全のための調査
(北海道大学植物園)

旭川市北邦野草園

<調査・研究>

- ・北海道上川管内に自生する植物の調査研究
- ・北海道・蛇紋岩地帯での植物の調査研究
- ・環境省モニタリングサイト 1000 里地調査
- ・北海道レッドリスト改訂に関わる調査、検討
- ・植物標本の作成・整理
- ・研究機関（大学）との共同調査

<教育・普及啓発>

- ・自作ハンドブック「旭川の植物」による観察会の開催（7回）
- ・自然教室（小高校）の実施
- ・調査研究報告書 No. 14 を発行（2026 年 3 月）

国立科学博物館筑波実験植物園

<調査・研究>

- ・ラン科初期分岐群の進化過程と生態特性の解明
- ・琉球列島と台湾に共通分布する複数植物の分化過程と分布成立過程の追跡
- ・ミズアオイ科ミズアオイ属の隠蔽種の発見と生態的分化の解明
- ・キク科などの高山植物の生物学的特性の解析を進めて栽培増殖技術を開発するなど保全の基盤を構築するとともに、アントシアニンの生理・生態的な機能の解明

- ・ラン科ヨウラクラン属の系統と遺伝的分化の解明
- ・カンアオイ属をはじめとする日本固有種の特異な送粉様式の実態解明
- ・日本固有属エゾノチャルメルソウ属の花の香りおよび送粉様式の詳細を解明
- ・ラン科、シダ植物など保全を目的とした無菌播種、菌共生播種、孢子培養、自生地播種の技術確立

<教育・普及啓発>

- ・サクラソウ品種展、琉球の植物展、きのこ展、ラン展、クレマチス園公開などを実施
- ・都市生態系におけるランの保全に関する企画展示、講演会を実施
- ・企画展の中で生物多様性保全に関するイベントを開催
- ・「高山植物のみかた」、「水草をもっと見る：研究から学ぶ新しい観察の視点」、「鳥類のリスク回避行動：つくばと東京での調査から警戒性を比較する」などの講座を開催
- ・コシガヤホシクサの保全体験講座を開催
- ・外部の企画展、イベント、シンポジウムなどに協力

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・コシガヤホシクサの保全に関する NPO 法人アクアキャンプ、地元関係者、地方自治体との合同検討会議を開催
- ・国際自然保護連合、ランネットワーク、ラン懇話会、水草保全ネットワーク、日本クレマチス協会などの活動への支援
- ・つくば生き物多様性フェスタへの参加

環境省新宿御苑

<教育・普及啓発>

- ・日本絶滅危惧種展 6 月
- ・企画展「絶滅危惧植物おはよう新芽ちゃん」の実施 3 月
- ・バックヤードツアー（月 1 回）※絶滅危惧植物の生息域外保全の取り組みを解説

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・自然友の会と連携した絶滅危惧植物の種子採集
- ・土浦植物友の会と連携した絶滅危惧植物の種子採集
- ・安房生物愛好会と連携した絶滅危惧植物の種子採集

東京都神代植物公園(植物多様性センター)

<調査・研究>

- ・東京都内における絶滅危惧植物を含む自生種の生育状況・生育環境のモニタリング調査の実施（大島、神津島、御蔵島等）
- ・ラン科植物自生種の無菌培養、及びその他東京都産自生種の繁殖、栽培

<教育・普及啓発>

- ・近隣小学校、中学校と連携して学習プログラムを実施
- ・「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウムの開催（7 月）
- ・講座開催（年 11 回開催）
- ・情報館内エントランス展示（イネ科植物・植物標本・落葉等）
- ・都立公園等出張展示
- ・他公園における植物観察会講師派遣

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウムをラン懇話会と共同開催



シマクモキリソウの展示(筑波実験植物園)



無菌培養の実施
(神代植物公園植物多様性センター)

- ・東京都内本土部・島嶼部の活動団体・活動家との情報連絡会の開催（1月・2月）
- ・自生種モニタリング調査での、各地活動団体・活動家との協力、連携



左:講座「植物標本をもっとつくろう!」 右:情報連絡会の開催（神代植物公園植物多様性センター）

北里大学薬学部附属薬用植物園

<調査・研究>

- ・園内で栽培されており、日本薬局方収載の絶滅危惧植物でもあるミシマサイコ、キキョウ、ムラサキ、ハマビシ、ショウドシマレンギョウ、チャンチンモドキなどの生育域外保全（ムラサキは受託研究対象）

<教育・普及啓発>

- ・日本薬局方収載の絶滅危惧植物の植栽展示
- ・環境省や日本植物園協会からの関連ポスター掲示
- ・関東拠点園の取組みへの参加

新潟県立植物園

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・県内小学校とのアサザ自生地調査（6月、9月）

富山県中央植物園

<調査・研究>

- ・環境省生物多様性保全推進支援事業の実施（令和6年度から）
- ・立山の高山植物群落の調査
- ・レッドデータブックとやま 2025 改訂のための調査
- ・富山県産チョウジソウの自生地の生息域外保全（継続）
- ・愛知県のキンセイランの自生地の生息域外保全（継続）
- ・琉球諸島のリュウキュウカンヒザクラの自生地調査
- ・富山県中央植物園友の会植物誌部会による県内のフロラ調査
- ・鹿児島県でのツクシムレスズメおよびタカクマムラサキの自生状況調査

- ・ヤドリコケモモにおける種子の低温保存方法のまとめ

<教育・普及啓発>

- ・ラン科植物をメインとした企画展（7回）、さつき・盆栽展（2回）、サボテン・多肉植物展（2回）、おもと展、ツツジ・シャクナゲ展、クリスマスローズ展、雪割草展等の実施
- ・夏休み子ども企画「オオオニバスに乗ってみよう」の実施
- ・研究発表展による職員の研究成果の紹介
- ・マスコミなどへの情報や写真の提供
- ・外部のシンポジウムにて生物多様性について講演



コモチナバケシダの発芽試験
（富山県中央植物園）

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・地元の植物愛好家団体との共同調査および共催による企画展展示
- ・富山県生物学会との共同調査および共催による講演会開催



左:シマカコソウの系統保存と増殖 右:タカクマムラサキの自生状況調査
(富山県中央植物園)

白馬五竜高山植物園

＜調査・研究＞

- ・遠見尾根（地藏ケルン周辺）における蛇紋岩特産植物の個体数調査
- ・蛇紋岩に特産するハッポウタカネセンブリ等の継続的な個体数モニタリング

＜教育・普及啓発＞

- ・第11回きずなフォーラム（ポスター発表）
- ・自然共生サイトに関する展示と普及啓発イベント

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・自然共生サイトモニタリング調査手法の検討
- ・地域の自然保護団体の規模縮小による解散で実施断念（今後、地元教育機関の環境教育の一環としてのモニタリング調査の形態確立を目指し協議中）

名古屋市東山植物園

＜調査・研究＞

- ・ミカワバイケイソウの生息域外保全（継続）
- ・ヤマシャクヤク、エビネの生息域外保全（継続）
- ・ノジトラノオの生育域外保全（継続）
- ・ヤチヤナギの生育域外保全（継続）
- ・ケブカツルカコソウの生育域外保全（継続）
- ・ヒメタニワタリ、アマミデンド、ナガミカズラ、ハカマウラボシの生育域外保全（継続）
- ・ホンゴウソウ、ヒナノシャクジョウの生育域保全（継続）

＜教育・普及啓発＞

- ・第6回中部植物多様性保全拠点園連絡会議の開催（東山植物園）
- ・機関紙「ひがしやま」で園保有の絶滅危惧植物を紹介
- ・環境教育「絶滅危惧種（東海地方を中心とした）私たちの身近に起こっていること」の実施

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・NTT 西日本との連携でフタバアオイを園内で増殖（継続）

安城産業文化公園デンパーク

＜調査・研究＞

- ・園内補植後の経過観察

＜教育・普及啓発＞

- ・教育普及活動として子供向け学習プログラム「草木と遊ぼう」において、ガマズミ属の実の観察を実施
- ・植物ガイドツアーでガマズミ属、サルビア属、ギボウシ属コレクションについて説明
- ・花の大温室フローラルプレイス内ガーデンルームでギボウシ展を行い、約 80 品種を展示（6 月 14 日～7 月 7 日）



左:サルビアの仲間の保全

中:ギボウシの仲間の保全

右:ヒイラギナンテンの仲間の保全

(安城産業文化公園デンパーク)

内藤記念くすり博物館附属薬用植物園

＜調査・研究＞

- ・ミノシライトソウの自生地環境調査と、2024 年から行っているスズカケソウの自生地環境調査

＜教育・普及啓発＞

- ・絶滅危惧種保全活動のパネル展示

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・岐阜県植物研究会事務局

豊橋総合動植物公園

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・絶滅危惧種ナガボナツハゼの自生地保全について、市民ボランティアとの協働で、自生環境を改善するため間伐・除草等の作業を実施



ナガボナツハゼの自生地保全
(豊橋総合動植物公園)

大阪公立大学附属植物園

＜調査・研究＞

- ・環境省連携事業（日本植物園協会）の一環で、西日本に生育する絶滅危惧種の調査・域外保全を実施
- ・共同利用・共同研究拠点「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点」に関する活動の実施
- ・生物多様性保全推進支援事業（環境省）「キレハオオクボシダの栽培方法の確立」を実施

＜教育・普及啓発＞

- ・交野市との包括連携協定に基づき、「環境フェスタ in 交野 2026」（主催：かたの環境フェスタ市民会議



左:熊本県でのコモチイヌワラビの調査
右:西表島でのサキシマホラゴケの調査
(大阪公立大学附属植物園)

事務局)においてブースを出展し、特定外来生物クビアカツヤカミギリに関する啓発を行うとともに、地域のサクラを守り育てる「交野みらいの桜プロジェクト」の成果報告

・(一社)日本樹木医会近畿地区協議会(事務局:大阪府支部)と共催して、講演会「特定外来生物の襲来」を開催

- ・各種観察会を実施
- ・博物館実習を開講

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・近畿植物同好会と協働で調査を実施
- ・交野自然の杜クラブ(大阪府交野市)と「絶滅危惧種のキンランの自生地での増殖法の研究(種子ステイック法の実践)及び遺伝的多様性の研究」を開始

大阪府立花の文化園

<調査・研究>

・自生地調査:奈良県五條市(4月8日)、和歌山県九度山町(5月23日)、奈良県下市町・川上村(7月22日)、和歌山県高野町(8月21日)、和歌山県高野町(8月23日)、和歌山県高野町(9月20日)、和歌山県高野町(10月17日)、和歌山市(11月11日)、和歌山県田辺市(2月21日)、奈良県五條市(3月1日)、和歌山県田辺市(3月7日)、奈良県五條市(3月1日)、和歌山県田辺市(3月7日)、大阪府和泉市(3月13日)

<教育・普及啓発>

- ・自生地調査報告展示:常設展示
- ・植物保全講習:2月18日、2月26日
- ・子供向け講座開催:押し葉標本作り講習、タンポポ観察会等
- ・大人向け自然観察会(不定期)

<市民団体とのネットワーク構築>

・山に詳しい山林ボランティアの方々と一緒に山に入り調査、および地域の限られた場所で自然観察や保全を行っている団体などへの連携と情報共有の呼び掛け



たんぽぽ観察会(大阪府立花の文化園)

咲くやこの花館

<調査・研究>

- ・栽培条件に係る比較検討

<教育・普及啓発>

- ・開花期の高山植物室への展示および生息域外保全の取り組みに係るパネル展示

大阪市立長居植物園

<教育・普及啓発>

- ・植物に関する講習会・ガイドツアーの実施(年間25回)
- ・植物園で活動するボランティアの勉強会の実施(年間15回)

<その他>

- ・過年度より実施している淀川河川敷工事に伴う希少植物の保存・育種に協力

京都府立植物園

<調査・研究>

- ・京都府内の絶滅危惧種
- ・キレンゲショウマ(奈良県)の遺伝子汚染について

<教育・普及啓発>

- ・芦生シンポジウム「けもの、植物そして私たち」の開催
- ・ユキミバナ教室(丹波町立和知小学校)の実施

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・京都府立植物園機能向上ボランティア「現地調査チーム」を公募・立ち上げ

武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園

<教育・普及啓発>

- ・京都の希少種を学ぼう！いきもの観察会：京都水族館連携（5月15日）
- ・在来希少植物を用いた庭づくりイベント：京都市共催（5月31日、6月1日、3月14日、3月15日）
- ・希少植物や魚に触れ合える体験イベント：京都水族館、環境省連携（10月19日）
- ・植物の生命と色：きょうと生物多様性センター主催（10月26日）
- ・企業×小学校×行政で生物多様性！
- ・宝が池公園ゆかりのコバノミツバツツジを植えます！：京都市建設局みどり政策推進室主催（10月25日、10月26日）

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・「琴引浜の鳴り砂を守る会」との種子保存に関する連携
- ・崇仁すくすくセンター

<その他>

- ・「認定希少種保全動植物園等」制度における7種の追加申請の受理（1月16日）



左：「琴引浜の鳴り砂を守る会」との種子保存に関する連携 右：企業×小学校×行政で生物多様性！
（武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園）

六甲高山植物園

<教育・普及啓発>

- ・毎日、無料で2回花のガイド、第2土曜日と第3土曜日は外部識者によるガイドを実施
- ・「え！こんな近くに高山植物」3月15日～7月13日開催



左：沖先生のぶらぶら園内ガイド 中：食虫植物寄せ植え体験 右：藍のたたき染め体験
（六甲高山植物園）

- ・「しょくぶつとむし」7月19日～9月23日開催
- ・「夜のむし観察会」(8月3日)、「食虫植物寄せ植え体験」(9月13日)、「藍のたたき染め」(8月23日)

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・兵庫県の依頼で、絶滅危惧種の生息域外保全し、開花した株から、順次、園内で展示

＜その他＞

- ・環境省、国土交通省、農林水産省の自然共生サイトに認定（認定理由：貴重な動植物の生育、兵庫県などの冷温帯性植物や希少昆虫の生息域外保全の取り組み、来園者への生物多様性の普及啓発活動）

姫路市立手柄山温室植物園

＜調査・研究＞

- ・丘陵地の谷部湿地やため池環境の調査を重点的に行い、特にサギソウの生育状況を調査
- ・姫路市にある家島諸島の男鹿島の湿地を継続調査

＜教育・普及啓発＞

- ・身近な絶滅危惧種の企画展示を実施および会場にてミニ講習会を開催
- ・サギソウ展において域外保全している各地の個体の違いについて生植物展示し、学校関係者あるいは生徒にサギソウの講義

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・兵庫県植物誌研究会や兵庫県生物学会の県下各地で植物調査する会員から絶滅危惧種の種子など寄贈

広島市植物公園

＜調査・研究＞

- ・環境省連携事業（植物園協会）の一環として、イワヤクシソウの調査を実施
- ・ミコシギク、トウゴクサバノオ、ウスユキソウをはじめとする広島県内の絶滅危惧植物の生育状況調査を実施
- ・ミコシギクおよびホソバママコナの生態的特性に関して発表
- ・広島市版レッドデータブック改定に向けての調査・協力

＜教育・普及啓発＞

- ・ラン関係では、年7回の展示会（エビネ展、春の洋ラン展、セッコク・長生蘭展、ウチョウラン展、秋の洋ラン展、寒蘭展、春の特別ラン展）と10回の講習会・実演会を開催
- ・植物多様性関係では、生物多様性がテーマの講座を1回実施
- ・野生生物の観察会（園内生きもの探訪）をのべ8回実施
- ・外部講師として、生物多様性をテーマにした講演

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・ミコシギクについて、地元団体（福富小・中学校、東広島市自然研究会）・広島大学と共同で調査・保全活動を実施
- ・ヤチシャジンの既知の自生地のうち、7カ所を地元団体（世羅町・世羅の自然を守る会）と共同で保全活動を実施
- ・広島市から依頼を受け、トウゴクサバノオの保全に関するヒアリング等に協力
- ・広島県内の植物標本庫（広島大学・広島県緑化センター）と標本の収蔵状況やデータベース化の進捗状況などについて情報を交換し、収蔵状況を視察

高知県立牧野植物園

＜調査・研究＞

- ・野生植物分布調査（安芸市・南国市・いの町・梶原町の4市町で調査）
- ・キリシマイワヘゴ・CR保全活動（防鹿柵設置、自動撮影カメラでの柵の影響評価等）
- ・ヒナノキンチャク・NT播種試験後のモニタリング
- ・タカクマソウ・CR新産地での植生調査・証拠標本採取
- ・シコクイチゲ・CR・国内希少野生動植物種の調査協力（兵庫教育大学）

- ・ニホンジカの食害対策のため防鹿柵設置（キレンゲショウマ・VU、トサトウヒレン・VU）
- ・絶滅危惧種の調査・情報収集（適宜）

＜教育・普及啓発＞

・高知県から受託する野生植物分布調査事業において、調査を通じて植物への関心を高め、人材育成を実施。野外での調査方法の習得ほか、屋内・野外研修会、分類学セミナー（シダ植物・ネコノメソウ属）などを実施

- ・主に小学生を対象とした実験・観察教室において野生植物に対する関心を高めるプログラムを実施

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・土佐植物研究会との協力関係（自然共生サイトへの登録における協力、分布調査への協力依頼）
- ・土佐清水ジオパーク及び室戸世界ジオパークとの連携協定による活動

福岡市植物園

＜調査・研究＞

- ・ハカタユリに関する調査の実施（開花数、生育状況等）

＜教育・普及啓発＞

- ・小学生向けの連続講座「植物ってこんなにおもしろい」開催（全4回）
- ・植物解説員による植物観察会を開催（全2回）

西海国立公園九十九島動植物園

＜調査・研究＞

- ・県内希少種の調査

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・ボランティア団体のヒメノボタン自生地保全作業へ参加

熊本大学薬学部薬用植物園

＜調査・研究＞

- ・熊本県内の植物調査を適宜実施

一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究所

＜調査・研究＞

【自主事業】

・西表島植物誌編纂事業（標本調査・標本データベース構築）

・希少植物・有用植物の種子等の超低温保存技術の確立に関する調査研究

・植物標本庫の充実化・活用・交換

・希少植物栽培試験・系統保存

【環境省事業】

・維管束植物3種（サガリラン・ホソバフジボグサ・リュウキュウヒメハギ）の生息域外保・全及び野生復帰技術の検討・開発業務実務担当（受託）

・希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務・種子保存に関する検討（受託）

・希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務・種子収集（協力）

【沖縄県事業】

・ナゴラン保護増殖委託業務実務担当（受託）

・沖縄県版レッドデータブック改訂 維管束植物補足調査



上：ツバキ展
中：沖縄の珍しい野生ラン展
下：世界の珍しいタネ展
（沖縄美ら島財団）

(協力)

<教育・普及啓発>

【展示会】

- ・夏休み特別展「ふわ・ぶか・もぐ・キラ 世界の珍しいタネ展」／沖縄県立博物館・美術館
- ・夏休み自由研究展／沖縄県立博物館・美術館
- ・沖縄国際洋蘭博覧会 特別展「沖縄の珍しい野生ラン展 ～探査と保全の最前線～」／海洋博公園
- ・やんばるの菌従属栄養植物の写真パネルの展示／海洋博公園
- ・ツバキ展／海洋博公園

【講演会・講習会等】

- ・講義「沖縄の野生植物の多様性と保全に向けて」／琉球大学
- ・公開講座「沖縄の植物 ランについて～保全・増やし方・品種育成」／名桜大学
- ・植物観察会「植物博士と公園を歩く」／海洋博公園
- ・沖縄国際洋蘭博覧会 ランに関する講演会「日本のラン科植物を網羅した『日本の野生ラン図鑑』とそこで用いられる分類の考え」／海洋博公園
- ・渡嘉敷島 植物観察会／慶良間自然保護官事務所
- ・講演「沖縄諸島の希少植物の現状」／沖縄有用植物研究会

<その他>

【環境省事業】

- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産地域科学委員会 委員（協力）
- ・国内希少野生動植物種指定種候補 現地調査・情報提供（協力）
- ・沖縄地域希少植物生育状況調査等業務 現地調査・情報提供（協力）
- ・生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会植物ワーキンググループ 委員（協力）
- ・やんばる世界遺産センター 展示監修・展示物制作（協力）

【沖縄県事業】

- ・沖縄県自然環境審議会 委員（協力）
- ・沖縄県希少野生生物保護推進事業検討委員会 委員（協力）
- ・沖縄県版レッドデータブック改訂・編集委員会（維管束植物） 委員・分科会員（協力）
- ・沖縄県外来種対策事業検討委員会 委員・植物対策作業部会 委員（協力）
- ・沖縄県環境影響評価審査会委員（協力）

【市町村事業】

- ・名護市文化財保存調査委員会 委員（協力）

【書籍】

- ・「琉球植物記（平凡社 2026）」監修（協力）



植物観察会「植物博士と公園を歩く」
(沖縄美ら島財団)

2026 年度 植物多様性保全拠点園事業・活動計画

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

<調査・研究>

- ・ 礼文島におけるササアザミ枯死と亜高山広葉草原の保全に関する調査
- ・ 北海道指定希少野生植物エンビセンノウの自生地植え戻し試験
- ・ 礼文島の高山植生保全のための調査
- ・ 日本の植物園の希少種コレクションとその情報管理の問題の検証
- ・ 環日本海分布植物の系統的・生理生態学的保全単位の研究
- ・ 部分的菌従属栄養植物イチゲイチャクソウの保全研究

<教育・普及啓発>

- ・ 小学生向け公開講座「葉っぱで作る植物図鑑」
- ・ 小学生とその保護者向け公開講座「冬の植物園ウォッチング・ツアー」

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・ 峠山の高山植物の生息域内・域外保全における「峠山自然保護協会」との協力
- ・ アポイ岳の高山植物の生息域内・域外保全における「アポイ岳ファンクラブ」との協力
- ・ 北海道の高山植物の生息域内・域外保全における「北海道高山植物保護ネット」との協力

旭川市北邦野草園

<調査・研究>

- ・ 北海道上川管内に自生する植物の調査研究
- ・ 北海道・蛇紋岩地帯での植物の調査研究
- ・ 環境省モニタリングサイト 1000 里地調査
- ・ 植物標本の作成・整理
- ・ 研究機関（大学）との共同調査

<教育・普及啓発>

- ・ 自作ハンドブック「旭川の植物」による観察会の開催（7 回）
- ・ 自然教室（小中高校）の実施
- ・ 調査研究報告書 No. 15 を発行（2027 年 3 月）

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・ 地域の絶滅危惧植物の自生地調査、適切な保護・保存の検討

国立科学博物館筑波実験植物園

<調査・研究>

- ・ 絶滅危惧植物の種の実体の把握と分類学的な再検討、遺伝的構造の解析
- ・ 絶滅危惧植物の生活史と繁殖特性把握
- ・ 保全を目的とした無菌および菌共生播種と自生地播種の方法、作業手順の改良
- ・ 野生絶滅種コシガヤホシクサの繁殖生態の解明
- ・ 絶滅危惧種を含む高山植物の化学成分の調査
- ・ ハエ類によるラン科絶滅危惧種の果実食害の実態解明
- ・ 環境省生物多様性保全推進支援事業の実施

<教育・普及啓発>

- ・ サクラソウ品種展、水草展、きのこ展、ラン展、クレマチス園公開などを実施

- ・企画展の中で生物多様性保全に関するイベントを開催
- ・コシガヤホシクサの保全体験講座を開催
- ・外部の企画展、イベント、シンポジウムなどに協力

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・コシガヤホシクサの保全に関する NPO 法人アクアキャンプ、地元関係者、地方自治体との合同検討会議を開催
- ・ランネットワーク、ラン懇話会、日本クレマチス協会、IUCN などの活動への支援
- ・つくば生き物多様性フェスタへの参加

環境省新宿御苑

＜教育・普及啓発＞

- ・日本絶滅危惧種展 6 月
- ・バックヤードツアー（月 11 回）※絶滅危惧植物の生息域外保全の取り組みを解説

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・自然友の会と連携した絶滅危惧植物の種子採集
- ・土浦植物友の会と連携した絶滅危惧植物の種子採集
- ・安房生物愛好会と連携した絶滅危惧種の種子採集

東京都神代植物公園(植物多様性センター)

＜調査・研究＞

- ・絶滅危惧植物を含む野生植物の東京都内自生地モニタリング調査（5～10 種程度）
- ・野生のラン科植物の無菌播種及びその他東京都内の自生種の増殖、栽培

＜教育・普及啓発＞

- ・野生ランシンポジウムの開催（ラン懇話会との共催）
- ・近隣小学校と連携しての授業（連続講座、4 回/年）
- ・講座開催 10 回程度
- ・情報館内エントランス展示

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・東京都内本土部、島嶼部の活動家との情報連絡会（1 月頃開催）
- ・各種野生種現地調査での協力、連携

北里大学薬学部附属薬用植物園

＜調査・研究＞

- ・園内で栽培されており、日本薬局方収載の絶滅危惧植物でもあるミシマサイコ、キキョウ、ムラサキ、ハマビシ、ショウドシマレンギョウ、チャンチンモドキなどの生育域外保全（ムラサキは受託研究対象）

＜教育・普及啓発＞

- ・日本薬局方収載の絶滅危惧植物の植栽展示
- ・環境省や日本植物園協会からの関連ポスター掲示
- ・関東拠点園の取り組みへの参加

新潟県立植物園

＜調査・研究＞

- ・生育を確認している場所を中心に自生地調査実施

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・県内小学校とのアサザ自生地調査(2 回/年)

富山県中央植物園

＜調査・研究＞

- ・環境省 生物多様性保全推進支援事業の実施（令和 6 年度から実施）
- ・立山の高山植物群落の調査

- ・レッドデータブックとやま 2025 改訂のための調査
- ・富山県産チョウジソウの自生地の生息域外保全（継続）
- ・愛知県のキンセイランの自生地の生息域外保全（継続）
- ・琉球諸島のリュウキュウカンヒザクラの自生地調査
- ・富山県中央植物園友の会植物誌部会による県内のフロラ調査

<教育・普及啓発>

- ・ラン科植物をメインとした企画展（7 回）、さつき・盆栽展（2 回）、サボテン・多肉植物展（2 回）、おもと展、ツツジ・シャクナゲ展、クリスマスローズ展、雪割草展等の実施
- ・夏休み子ども企画「オオオニバスに乗ってみよう」の実施
- ・研究発表展による職員の研究成果の紹介
- ・マスコミなどへの情報や写真の提供

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・地元の植物愛好家団体との共同調査および共催による企画展展示
- ・富山県生物学会との共同調査および共催による講演会開催

白馬五竜高山植物園

<調査・研究>

- ・2025 年に弊社株式会社五竜がいいもりスキー場を取得したことに伴う、いいもりゲレンデ内の植生調査（スキー場ゲレンデには、高地草原を自生地とする希少種の生存を期待）

<教育・普及啓発>

- ・上記の調査結果について、園内ビジターセンター、短報等にて発表

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・地元有識者および植物愛好家グループの協力のもと、上記の調査を実施

<その他>

- ・いいもりスキー場ゲレンデで種子の採集

名古屋市東山植物園

<調査・研究>

- ・ミカワバイケイソウの生息域外保全（継続）
- ・ヤマシャクヤク、エビネの生息域外保全（継続）
- ・ノジトラノオの生育域外保全（継続）
- ・ヤチヤナギの生育域外保全（継続）
- ・ケブカツルカコソウの生育域外保全（継続）
- ・ヒメタニワタリ、アマミデンド、ナガミカズラ、ハカマウラボシの生育域外保全（継続）
- ・ホンゴウソウ、ヒナノシャクジョウの生育域保全（継続）

<教育・普及啓発>

- ・第 7 回中部植物多様性保全拠点園連絡会議の開催（白馬五竜高山植物園）
- ・機関紙「ひがしやま」で園保有の絶滅危惧植物を紹介
- ・環境教育「絶滅危惧種（東海地方を中心とした）私たちの身近に起こっていること」の実施

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・NTT 西日本との連携でフタバアオイを園内で増殖（継続）

安城産業文化公園デンパーク

<調査・研究>

- ・園内の捕植後の経過観察を行い、更新補植などを検討

<教育・普及啓発>

- ・絶滅危惧植物、植物の保全について展示を温室内で実施（10 月 7 日～11 月 3 日）

内藤記念くすり博物館附属薬用植物園

<調査・研究>

- ・各種自生地環境・生態調査

<教育・普及啓発>

- ・絶滅危惧種保全活動のパネル展示、絶滅危惧種に関する外部講師による講演会開催

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・岐阜植物研究会事務局

<その他>

- ・スズカケソウの保全栽培や研究（中国産のスズカケソウを保有している園の情報提供を希望）

豊橋総合動植物公園

<調査・研究>

- ・絶滅危惧種ナガボナツハゼについて、豊橋市内の主要な自生地にて個体の確認調査

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・絶滅危惧種ナガボナツハゼの自生地保全について、市民ボランティアとの協働で、自生環境を改善するため間伐・除草等の作業を実施

大阪公立大学附属植物園

<調査・研究>

- ・西日本を中心とした絶滅危惧種の調査・域外保全（環境省連携事業）
- ・共同利用・共同研究拠点「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点」に関する活動
- ・キレハオオクボシダの栽培方法の確立（環境省・生物多様性保全推進支援事業）

<教育・普及啓発>

- ・交野市との包括連携協定にもとづく事業の一環として、環境フェスタ in 交野 2026（主催 かたの環境フェスタ市民会議事務局）にてブースを出し、地域の植物多様性を守る啓発活動を実施予定
- ・各種観察会を実施
- ・博物館実習を開講

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・地域のサクラを守り育てる「交野みらいの桜プロジェクト」を進める
- ・交野自然の杜クラブ（大阪府交野市）と「絶滅危惧種のキンランの自生地での増殖法の研究（種子ステイック法の実践）及び遺伝的多様性の研究」の継続
- ・近畿植物同好会と協働で調査を実施

大阪府立花の文化園

<調査・研究>

- ・月 1～2 回自生地調査（紀伊半島全域対象）

<教育・普及啓発>

- ・月 1 回程度：子供向け自然観察、調査会、ワークショップなど開催予定
- ・不定期（春～秋）：大人向け自然観察会開催
- ・植物保全講習会：6 月、2 月、3 月

咲くやこの花館

<調査・研究>

- ・栽培条件に係わる比較研究

<教育・普及啓発>

- ・開花期の展示および生息域外保の取り組みに係わるパネル展示

大阪市立長居植物園

<教育・普及啓発>

- ・植物に関する講習会・ガイドツアーの実施（年間 30 回程度）

- ・植物園で活動するボランティアの勉強会の実施（年間 15 回程度）

＜その他＞

- ・過年度より実施している淀川河川敷工事に伴う希少植物の保存・育種に協力

京都府立植物園

＜調査・研究＞

- ・京都府内（周辺地域を含む）の植生調査

＜教育・普及啓発＞

- ・京都府立植物園機能向上ボランティアのスキルアップ講座開催（一般公開）
- ・芦生シンポジウムの開催（京都大学との連携事業）
- ・和知小学校とのユキミバナ保全事業

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・機能向上ボランティア「現地調査チーム」加入者を中心に、密なネットワークの構築

武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園

＜教育・普及啓発＞

- ・在来希少植物を用いた庭づくりイベント：京都市環境政策局環境企画部環境保全創造課共催（5月30日、31日）
- ・専門家が集結し、多角的な視点で希少種について学び、触れ合うイベント：京都水族館、天王寺動物園、伊丹市昆虫館連携（2026年10月）

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・京都府立丹後海と星の見える丘公園

六甲高山植物園

＜教育・普及啓発＞

- ・毎日、無料で2回花のガイドおよび第2土曜日と第3土曜日は外部識者によるガイドを実施
- ・「花びより」4月1日～7月12日開催
- ・「しょくぶつとむし」7月18日～9月23日開催
- ・「夜のむし観察会」（8月2日）や「食虫植物寄せ植え体験」や「藍のたたき染め」「植物写真家いがり先生の写真教室」（5月23日、5月30日）実施

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・兵庫県の依頼で、絶滅危惧種の生息域外保全し、開花した株から、順次、園内で展示

姫路市立手柄山温室植物園

＜調査・研究＞

- ・ため池、湿地環境の調査を重点的に実施（島嶼部の湿地含む）
- ・指定場所の獣害対策に取り組む

＜教育・普及啓発＞

- ・身近な絶滅危惧種の企画展示を実施し、同時に会場にてミニ講習会を行う予定
- ・学校関係者あるいは生徒にサギソウの講義を行う
- ・企画展として危険植物の紹介

＜市民団体とのネットワーク構築＞

- ・兵庫県植物誌研究会や兵庫県生物学会の会員による県下各地での植物調査で確認した絶滅危惧種の種子などを寄贈受け入れ。なかでも保全活動を行っている会員に対し、可能な限り協力する。

＜その他＞

- ・兵庫県立人と自然の博物館ジーンバンクとの協働で系統保全について検討を継続

広島市植物公園

＜調査・研究＞

- ・広島市版レッドデータブック改定に向けての調査・協力

- ・トウゴクサバノオ、ネコヤマヒゴタイ等の生育状況調査
- ・絶滅危惧植物の保全に向けた生態的特性の把握調査

<教育・普及啓発>

- ・ラン科植物の展示会：7回（講習会9回/年）（継続事業）
- ・絶滅危惧植物（生物多様性がテーマの園内観察会）：1回（継続事業）
- ・園内生きもの探訪（園内外の動植物の営みや生態系の解説）：8回（継続事業）

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・ミコシギクの保全（継続事業）
- ・ヤチシャジンの保全活動への協力（継続事業）
- ・広島県内の標本庫相互の情報交換網の整備（継続事業）

高知県立牧野植物園

<調査・研究>

- ・野生植物分布調査（馬路村・須崎市・仁淀川町・宿毛市の4市町村で調査）
- ・キシマイワヘゴ・CR保全活動（孢子採取、自動撮影カメラでの柵の影響評価等）
- ・ヒナノキンチャク・NT播種試験後のモニタリング
- ・ニホンジカの食害対策のため防鹿柵設置（トケンラン・VU）
- ・シコクイチゲ・CR・国内希少野生動植物種の調査協力（兵庫教育大学）
- ・ギボウシ属植物の調査
- ・絶滅危惧種の調査・情報収集（適宜）

<教育・普及啓発>

- ・高知県から受託する野生植物分布調査事業において、調査を通じて植物への関心を高め、人材育成し、野外での調査方法の習得ほか、屋内・野外研修会、分類学セミナー（スゲ属・イカリソウ属・水草）などを実施
- ・主に小学生を対象とした実験・観察教室において野生植物に対する関心を高めるプログラムを実施

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・土佐植物研究会との協力関係（自然共生サイトでの活動協力、分布調査への協力依頼）
- ・土佐清水ジオパーク及び室戸世界ジオパークとの連携協定による活動

福岡市植物園

<調査・研究>

- ・ハカタユリに関する調査の実施（開花数、生育状況等）

<教育・普及啓発>

- ・小学生向けの連続講座「植物ってこんなにおもしろい」開催など
- ・植物解説員による植物観察会を開催など

西海国立公園九十九島動植物園

<調査・研究>

- ・前年に引き続き、県内希少種の調査
- ・ニワフジ類の調査協力（九州大学）

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・ボランティア団体の希少種自生地保全作業へ参加

熊本大学薬学部薬用植物園

<教育・普及啓発>

- ・熊本大学薬学部「第33回薬草パーク観察会」にて、NPO法人阿蘇花野協会理事による「阿蘇の野の花を未来につなぐ」のテーマの講演

<その他>

- ・日々の調査で絶滅危惧種を発見したら、その都度対応

一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究所

<調査・研究>

【自主事業】

- ・西表島植物誌編纂事業（標本調査・データベース構築・執筆・編集）
- ・希少植物・有用植物の種子等の超低温保存技術の確立に関する調査研究
- ・植物標本庫の充実化・活用・交換
- ・希少植物栽培試験・系統保存

【環境省事業】

- ・維管束植物2種（ホソバフジボグサ・リュウキュウヒメハギ）の生息域外保全及び野生復帰技術の検討・開発業務実務担当（受託）

- ・希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務・種子保存に関する検討（受託）
- ・希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務・種子収集（協力）

【沖縄県事業】

- ・ナゴラン保護増殖委託業務実務担当（受託）
- ・沖縄県版レッドデータブック改訂 維管束植物補足調査（協力）

<教育・普及啓発>

【展示会】

- ・特別展「やんばるの森から見つかった新種 ヤンバルカラマツ」／海洋博公園
- ・沖縄国際洋蘭博覧会 特別展「沖縄の珍しい野生ラン展」／海洋博公園
- ・ツバキ展／海洋博公園
- ・夏休み自由研究展／場所未定

【講演会・講習会等】

- ・講義「沖縄の野生植物の多様性と保全に向けて」／琉球大学
- ・公開講座「沖縄の植物 ランについて～保全・増やし方・品種育成」／名桜大学
- ・植物観察会／海洋博公園
- ・植物観察会／慶良間自然保護官事務所

<その他>

【環境省事業】

- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産地域科学委員会 委員（協力）
- ・国内希少野生動植物種指定種候補 現地調査・情報提供（協力）
- ・沖縄地域希少植物生育状況調査等業務 現地調査・情報提供（協力）
- ・生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会植物ワーキンググループ 委員（協力）
- ・やんばる世界遺産センター 展示監修（協力）

【沖縄県事業】

- ・沖縄県自然環境審議会 委員（協力）
- ・沖縄県希少野生生物保護推進事業検討委員会 委員（協力）
- ・沖縄県版レッドデータブック改訂・編集委員会（維管束植物） 委員・分科会員（協力）
- ・沖縄県外来種対策事業検討委員会 委員・植物対策作業部会 委員（協力）
- ・沖縄県環境影響評価審査会委員（協力）

【市町村事業】

- ・名護市文化財保存調査委員会 委員（協力）

植物多様性保全事業年次報告 2026

発行年月日 2026 年 5 月 26 日
編 集 植物多様性保全委員会
発 行 公益社団法人日本植物園協会
〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11-201
TEL: 03-5685-1431 FAX: 03-5685-1453